



## 国王をめぐる姉妹の愛と運命

松本 侑壬子・ジャーナリスト

今月は、イギリス王室をめぐる歴史劇である。華麗で熾烈で危険な、ヘンリー8世の王妃の座をめぐる争い。それが仲のよい姉妹の間に起きたとしたら？ 歴史に名高い、断頭台の露と消えた悲劇の王妃アンには実は知られざる妹がいた。一族の発展のための企てが、仲のよい姉妹を王の愛をめぐる非情な争いに押しやっていく。イギリスの歴史を変え、ヨーロッパから世界へと影響を及ぼしたヘンリー8世とアンの結婚をめぐる、愛と裏切りと陰謀の激しい人間ドラマだ。

時代は16世紀。イギリス王ヘンリー8世には、スペイン王家から来た王妃との20年にわたる結婚生活からただ一人の王女しか生まれなかった。何としても男子の世継ぎをもうけたい王に、新興貴族トマス・ブーリンは、そのための愛人として自慢の長女アン(ナタリー・ポートマン)を差し出す。もし首尾よく男児が生まれれば、それはブーリン一族にとって富と権力を得るチャンスだ。戸惑うアンも王に気に入られれば、輝かしい未来が待っているとの父親の説得に心を決める。

ところが事態は意外な展開を見せる。鹿狩りのためにブーリン家に滞在した王は、妹のメアリー(スカーレット・ヨハンソン)に心引かれたのだ。美貌と知性に輝く姉アンと違って気立てがよくて素直なメアリーは、父親の決めた裕福な商人の息子と既に結婚していた。だが王は、両親ら

一族郎党ぐるみ宮中に招き、メアリーを愛人に、と申し出る。父はもちろん夫ですら受け入れた宮中生活だったが、田舎育ちのメアリーは特にありがたいと思わずただ従ったのだ。が、アンにとっては、すべてはメアリーの裏切りであり、いつか復讐を果たす機会を狙っていた。

メアリーは肝心の王ヘンリーが案外にやさしく魅力的なので、次第に心を開いて愛するようになり、無事に男児を出産する。しかし、その後メアリーは体調を崩してベッドに伏せがちになり、王の関心が薄れ始める。危機を感じた父親は、家出してフランスに滞在していたアンを呼び戻す。機会到来。すっかりフランス仕込みの貴婦人となったアンは腕によりをかけて王に接し、王の関心を引き付ける。やがて、アンも妊娠するが、愛人としての出産では男児が生まれても立場が不安定だ。何としても正式な王妃の地位がほしいと、先妻の王妃を追い出すために画策し始める。メアリー母子も田舎の城にと帰した。

アンに先妻との離婚を強く迫られたヘンリー王はさすがに躊躇する。ローマ・カトリック教会は離婚を許さず、あえて強行することはヨーロッパ中からの孤立を意味するからだ。だが、1533年、ついにヘンリー8世は自分の子を身ごもったアンと結婚する。そのためにカトリック教会を離脱してイギリス国教会を設立、ヨーロッパ中を敵に回すという代償を伴った。アンの勝利。だが、生まれてきたのは女の子だった…。

目的のためにはわが身も周囲も巻き込み、前進あるのみ、のアン。無理をせず、周囲との調和を図りながら心を尽くして生きるメアリー。一見対照的に見える女性の生き方だが、共通なのは、王室の女性に課せられた最大の役割は、立派な世継ぎの男児を生むこと以外にない、ということであった。アンの娘エリザベスI世が、長じてイギリスを45年間も統治し、黄金時代を築いたのは、歴史の皮肉である。

### 『ブーリン家の姉妹』

米英合作映画(115分) / ジャスティン・チャドウィック監督

10月より、シャンテシネ他全国TOHOシネマズ系にてロードショー

© 2008 Columbia Pictures Industries, Inc and Universal City Studios Productions LLLP and GH Three LLC. All Rights Reserved.

